

会 議 記 録

次のとおり会議記録を作成します。

会 議 名	令和3年度 第2回高松市地球温暖化対策実行計画推進協議会
開 催 日 時	令和4年1月19日（水） 13時30分～15時10分
開 催 場 所	W e b会議方式及び高松市役所本庁舎11階 113会議室
議 題	（1）現行「高松市地球温暖化対策実行計画」の令和2年度取組状況等について （2）エコシティたかまつ環境マネジメントシステムの令和2年度取組状況について （3）見直しする「高松市地球温暖化対策実行計画」の素案について（「高松市地域再エネ導入戦略（素案）【概要版】」を含む。）
公開の区分	☒ 公開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開
上 記 理 由	
出席委員	13人 嘉門会長、白木副会長、赤崎委員、香川委員、久保委員、杉ノ内委員、常富委員、土手委員、西村委員、橋田委員、藤田委員、松川委員、溝渕委員
欠席委員	5人
傍 聴 者	—
担 当 課 及 連 絡 先	環境総務課地球温暖化対策室 (Tel087-839-2394)

審議経過及び審議結果
協議会を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。 次のとおり、協議会を開催した。 （1）現行「高松市地球温暖化対策実行計画」の令和2年度取組状況等について （事務局より説明） 以後審議 （会 長） 資料 p.8 公共交通機関の利用率の指標について、新型コロナウイルス感染拡大に伴う公共交通機関利用者の減少と合わせて、テレワークの普及などで自家用車の利用も減少すれば問題ないと思うが、公共交通機関利用者の減少に伴い自家用車利用者が増加すると、逆に温室効果ガス排出量が増加する可能性はあるか。 （事務局） データが手元にないため断定はできないが、公共交通機関から自転車通勤やテレワークに切り替えた人もいれば、自家用車の利用に切り替えた人もいると思われる。その場合に

審議経過及び審議結果

は、温室効果ガス排出量は増加し得ると考える。

(副会長)

資料 p.8 環境学習講座参加者数について、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での講座の参加者数が減少したと思うが、オンライン等の試みはあったか。

(事務局)

オンラインでの環境学習講座については、令和2年度は Web での実施環境が整っていなかったため、オンラインでの実施はなかった。今年度はオンラインでの講演会も実施予定であり、今後もオンラインを積極的に活用して講座や講演会を実施していきたい。

(2) エコシティたかまつ環境マネジメントシステムの令和2年度取組状況について

(事務局より説明)

以後審議

(会 長)

説明の中で用紙使用量が増えた要因として、マイナンバーカード申請業務を挙げているが、マイナンバーカードの申請数はどのくらい増えたのか。また、市内の医療機関で健康保険証としてマイナンバーカードを使用できる病院はいくつあるのか。

(事務局)

確認次第、御報告させていただく。

(3) 見直しする「高松市地球温暖化対策実行計画」の素案について

(「高松市地域再エネ導入戦略(素案)【概要版】」を含む。)

(事務局より説明)

以後審議

(委 員)

資料3-①p.9「脱炭素型ライフスタイル推進リーダー養成講座やモデル事業の実施等」について、具体的にどのようなものを考えているのか。

(事務局)

今年度より脱炭素型ライフスタイル普及促進事業を開始しており、第1回目のリーダー養成講座を1月25日に実施する。また第2回目についても、2月に実施できるよう準備を進めており、来年度以降も継続して実施していく。

(委 員)

市民一人ひとりの行動をどのように促進していくかという課題において、行政だけでは限界がある中で、このような取組は重要だと思うので、ぜひ取り組んでもらいたい。

審議経過及び審議結果

(副会長)

資料3-①p.13 脱炭素型まちづくりの推進について、近年ではグリーンビルディングという考え方も出てきているので、このような世界的な流れも反映していただければと思う。

また、まちづくりの取組を実施する際に、先ほどのリーダー養成講座や小・中学校における教育においても、よりインセンティブな目標を設定する方が、推進されると思う。

(事務局)

グリーンビルディングについては今後更に情報収集をし、施策に反映できるものから反映していくとともに、関係部局とも連携していきたい。

また、リーダー養成講座や小・中学校教育におけるインセンティブ的な目標について、小・中学校については現在検討段階だが、リーダー養成講座については、講座受講者の中で今後リーダーとして取り組んでいただける方に、リーダー登録証を交付することとしている。また、脱炭素型ライフスタイルを推進するモデル事業として、香川大学と連携し次世代を担う若者のリーダーを養成している。学生のリーダー登録は、学生たちのモチベーション向上につながると聞いているので、今後、学生リーダーの登録を促進し、より一層のモチベーションアップを図る取組について考えていきたい。

(委 員)

環境教育やゼロカーボンについては、小学校3・4年生でゴミや水について学習しており、特に高松市では水について学習する機会を設けている。新しいものを学校教育の中に盛り込むだけでなく、現在子どもたちが学習している、環境についての内容をより充実させていくという方向で考えていただければと思う。

(事務局)

現在、各学校において環境学習について熱心に取り組んでいただいていると認識しており、今後の環境学習においても、ゼロカーボンの視点を持ってさらに充実させていくべきだと考えている。また、今年度林小学校においてゼロカーボンについて講義をしており、今後も、現在実施している環境学習を活用し、ゼロカーボンについての学習機会の充実を図っていきたい。また、今年の市の総合教育会議のテーマにもゼロカーボンが入っており、総合教育会議においてもゼロカーボンについて協議した。今後とも協議を深め、ゼロカーボンへの取組を一層推進していきたい。

(委 員)

第7章「市役所の率先実行」があることで、市の取組について市民により伝わると思う。ただ、文字が多いという印象を受けたため、これまで取り組んできたことのビフォーアフターを提示すると、市民の信頼がより得られると思う。

また、例えば食品ロスについて、現在市民団体等が様々な活動を実施しているので、市民団体と連携できる方法等を調査し、実行計画の中に盛り込むことができれば、よりよくなると思う。

地球温暖化対策においては、全ての活動の相互関係が大事だと考えており、趣味や職場

審議経過及び審議結果

など色々な団体を飛び超えて取り組まないといけないと考える。例えばスポーツ団体に食品ロスについて啓発したり、音楽団体に車に過度に依存しないよう啓発するなど、一見関係性がないと思われる２つの異なる要素を合わせて、新しい視点となるようなものを盛り込めば、より広がっていくと感じた。

最後にリーダー養成講座について、例えば市政ふれあい出前講座を通してリーダーになりたいと思う市民を育てていくなど、既存の人間関係でない趣味などの集まりの中でゼロカーボンについて一緒に考える機会を作ること、市民により理解してもらい、市域の連携が強まり文化的な広がりをもって大きな動きに発展していくと考える。

(事務局)

実行計画第７章の書き方については、内容を検討していく。

他の団体等との連携について、食品ロスについては、現在スポーツ関係と連携をとって事業を展開させており、その他の事業についても今後コラボしていきたいと考えている。

リーダー養成講座やモデル事業についても、現在実施している出前講座など、既存の市民への啓発機会を発展させ、リーダーとして活動していただける方を増やしていきたい。

(副会長)

資料３－①p. 20 に、「地域防災計画の更なる充実とそれに基づく訓練」とあるが、国土強靱化地域計画の方が防災計画の中では上位に位置付けられており、また健康や感染症も国土強靱化に含まれていると思うので、危機管理課と再度検討いただけたらと思う。

(事務局)

今後、担当課と再度検討していく。

(会 長)

高松市の国土強靱化計画と地球温暖化対策実行計画の該当部分が、特段齟齬をきたしてはいないと思う。また修正等検討いただければと思う。

また、BAUやPPAなど、アルファベットで省略されている言葉は、なじみのない方には難しい用語だと思うので、計画最後の用語解説ページに盛り込むべきだと考える。

(事務局)

後日追加させていただく。

(委 員)

資料１p. 6 １人１日当たりのごみ資源化量の指標がE判定となっているが、高松市はごみの分別も進んでおり、他の市町村と比べても細かく分別区分を設けていると思う。資源化が進まない要因としてどのようなことが挙げられるか。

(事務局)

ごみ資源化量については、各年度 207 g を維持することを目標としており、目標数値に達

審議経過及び審議結果

していないためE判定としている。詳しくは担当課で精査して御報告する。

(委 員)

数値が悪い要因として、目標値を高く設定しすぎていることも考えられるので、また検討いただければと思う。

3 その他

(事務局)

エコシティたかまつ環境マネジメントシステムの報告の際に御質問いただいた、マイナンバーカードの取得率については、令和4年1月現在42%となっている。また、市内の医療機関でマイナンバーカードを健康保険証として使用できる施設は70施設となっている。今後とも利用促進を図り、一層のペーパーレス化に努める。

また、現行「高松市地球温暖化対策実行計画」の令和2年度報告の際に御質問いただいた、1人1日当たりのごみ資源化量が減少している原因については、スーパーマーケットでの集団回収や、道路脇などに設置されている資源ごみを回収するステーションでの収集量が数値に反映されていないことが挙げられる。実際は、市で把握している量よりもリサイクルは進んでいると思われる。

(会 長)

資源化量については、民間で収集している量も数値に反映させ、市民の皆さんにお示しできるように努めていただきたい。

(会 長)

それでは本日の会議はこれをもって終了する。